

SONORA XJ LED-UV印刷機の ベストパートナー

大同出版紙業株式会社



LED-UV印刷機に最適な完全無処理版と知り、いち早くSONORA XJプロセスフリープレートを採用。CTPワークフローも最新のPRINERGYとTRENDSETTER Q800に入れ替えて生産工程全体の効率化を推進。

情報加工サービス業としての企画提案力が強み

北海道帯広市に本社を構える大同出版紙業株式会社は、昭和16年の創業以来、十勝エリアの官公庁や地元企業に「かゆいところに手が届く」「役に立つ」印刷サービスを提供してきた地域密着型の総合印刷会社である。同社の音更工場には印刷機を中心に製版から後加工まで充実した生産設備を備え、名刺・チラシ・DM・ポスター・冊子など幅広い印刷物の企画からデザイン、印刷、製本、配送までをワンストップでサポートしている。さらに近年では、紙への印刷のみならず、Webなどマルチメディア分野にも事業を拡大し、「印刷を核とした情報加工サービス業」として顧客ニーズに沿った企画提案力を強みとしている。

「慣れてしまうと、今までと何も変わりません。視認性についても運用上全く問題はありません」

LED-UV印刷機の導入を見越してSONORA XJをいち早く採用

同社がKODAK SONORA XJプロセスフリープレートに注目したのは、LED-UV印刷機の導入を模索していた約2年前のこと。代表取締役の



代表取締役社長 深澤 知博 氏



取締役 製造部 部長 吉野 昌樹 氏



製造部 次長 音更工場 工場長 佐藤 正志 氏



SCUとインラインパンチ付 TRENDSETTER Q800



道東初の LED-UV 印刷機 (A 全判 4 色)



十勝エリアの幅広い印刷ニーズに対応

深澤知博氏は当時を振り返って次のように話している。
 「古い印刷設備を LED-UV 印刷機に集約し、生産効率を高めたいと思っていました。その LED-UV 印刷機に最適な完全無処理版としてコダックの SONORA XJ が発売されると聞いて、CTP ワークフローもきちんと刷新しておこうと考えました」
 「無処理版は時代の流れ」「費用対効果を考えると現像処理工程は絶対に不要」と深澤社長は判断し、SONORA XJ の導入に向けて舵を切った。2016 年 1 月には、いち早く既存の油性印刷機（菊半裁・4 色機）で印刷テストを実施した。製造部次長で音更工場の工場長である佐藤正志氏は、当時の心境を次のように語っている。
 「機上現像という、見たことも聞いたこともない、全く新しい技術を取り入れた刷版なので、最初はとても不安でした。とりあえず機上現像とはどういうものなのかを確認したくて、すぐにテストを実施しました」
 結果は極めて良好で、SONORA XJ は競合製品と比べて「機上現像がスムーズで安定している」と手応えを感じたそうだ。取締役製造部部長の吉野昌樹氏も「同業他社をはじめ、印刷業界全体での評判やコダックの開発方針などを聞いて、SONORA XJ なら間違いはない」と確信したという。これにより SONORA XJ 導入の流れが決定的となり、2016 年 9 月には CTP ワークフローの刷新と同時に SONORA XJ が本格採用された。

LED-UV 印刷機で安定した印刷性能を発揮

同社ではこれまで現像タイプのプレートその他、一部の印刷機では銀塩プレートも使用していた。2016 年 9 月の機器更新では、コダック（旧 CREO）の PRINERGY & LOTEM ワークフローを KODAK PRINERGY と KODAK TRENDSETTER Q800 による最新の CTP ワークフローに入れ替えて、現像処理工程を一掃。LED-UV 印刷機の導入に備えて、今ある油性印刷機で無処理版の使い勝手に慣れていった。そして 2017 年 3 月、道東初となる待望の LED-UV 印刷機（A 全判・4 色機）を導入すると、LED-UV 印刷機をメインとする A 全判 4 色機と菊半裁 4 色機の 2 台生産体制が完成した。同時に銀塩プレートを使っていた古い印刷設備を一掃し、月平均 800～900 版使用する刷版は完全に SONORA XJ に統一された。新しい LED-UV 印刷機と SONORA XJ の相性は、予想通り素晴らしく、当初から安定した運用実績を重ねていった。耐刷性についてもすぐに最大 3 万通しを達成し「まだまだ余裕を持って刷れる状態だった」という。心配だった高精細 FM 印刷でも、品質が明らかに向上したそうだ。当初、不安を抱えていた佐藤工場長も「今では何も変わらない」と次のように断言している。

「慣れてしまうと、今までと何も変わりません。絵柄がすこし見づらくなったかも知れませんが、運用上の問題はありません。取り扱い方についてもコダックから説明がありましたが、元々丁寧に扱っていたので、キズによるトラブルは一切ありません」
 同社では製版専任のオペレータを本社に集約し、音更工場には RIP 済みの 1bitTIFF を送っていた。このため工場でのプレート出力は製版に明るい印刷現場のスタッフに任されていた。現像処理のない無処理版になってからは、PRINERGY の容易な操作性も手伝って、誰もが簡単に出力できるようになったという。さらに面倒なメンテナンスの手間と時間からも解放され、印刷現場全体の作業効率は飛躍的に向上した。費用面では薬品購入や廃液処理にかかる費用だけでも、年間 50 万円以上のコスト削減を実現している。その他、銀塩プレート関連の費用などを考慮するとトータルで 100 万円以上のコスト削減効果がある。

先進のワークフローで仕事の幅を大きく拡大

「LED-UV 印刷機ありき」で進んだ今回の大胆な設備更新によって、同社の生産性は飛躍的に向上した。最先端の技術を満載したシンプルで無駄のないワークフローは、コストを削減し、ミスロスのない、高い信頼性を実現する。万一トラブルが発生してもリモートサービスが非稼働時間を最小限に抑えてくれる。それだけではない。深澤社長が惚れ込んだ LED-UV 印刷機によって、プラスチックやクリアファイルなど特殊原反への印刷も可能になった。仕事の幅は大きく広がり、一段と魅力的な製品提案、さらには地域に密着した新たな顧客獲得も進めている。コダックもまた、同社の新たなビジネス展開を確かな技術力でサポートしている。



写真は音更工場

大同出版紙業株式会社

代表取締役社長：深澤 知博

本社：〒080-0017

北海道帯広市西 7 条南 6 丁目 2 番地

TEL：0155-23-5107

FAX：0155-23-9032

この印刷物は、KODAK SONORA XJ プロセスフリープレートを使用して印刷しています。

コダック 合同会社

<http://www.kodak.co.jp>

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)

大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270

仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250 金沢：076-200-9583

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

2017-08

